

# JET プログラム 25 周年記念シンポジウム

## The JET Programme 25th Anniversary

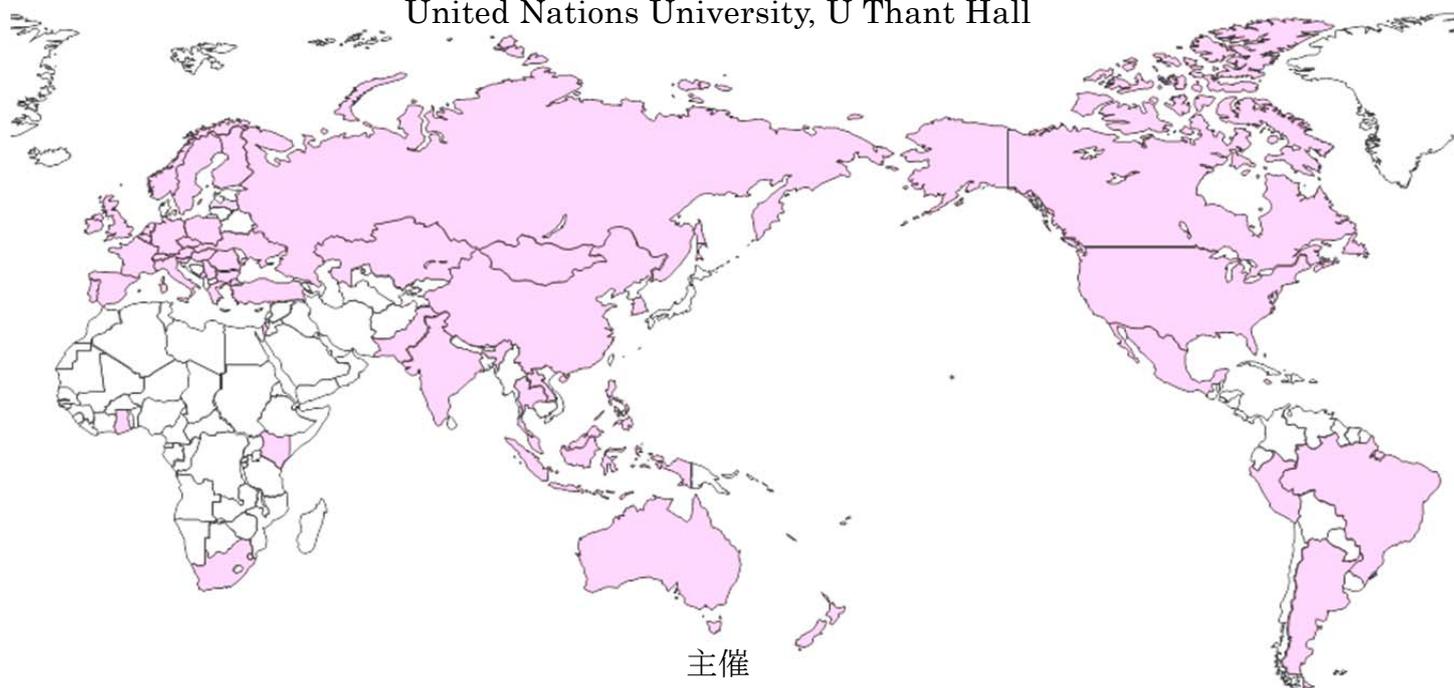
### Commemorative Symposium

平成 23 年 9 月 8 日 (木)

国際連合大学 ウ・タント国際会議場

Thursday, September 8, 2011

United Nations University, U Thant Hall



主催

総務省・外務省・文部科学省・(財)自治体国際化協会

後援

全国知事会、全国市長会、全国町村会

Hosted by

Ministry of Internal Affairs and Communications (MIC)

Ministry of Foreign Affairs (MOFA)

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)

Council of Local Authorities for International relations (CLAIR)

Supported by

National Governors' Association

Japan Association of City Mayors

National Association of Towns and Villages



JET プログラムの招致国は 60 か国（上記地図の網掛け）に及びますが、本プログラムは紙面の都合上、日・英の 2 か国語表記とさせていただいております。ご了承ください。

Although there are 60 countries (the shaded areas above) participating in the JET Programme, this brochure is written only in Japanese and English due to the page limitations. We apologize for the inconvenience this may cause.

## 開催に当たって

昭和62年に開始された「JETプログラム」(語学指導等を行う外国青年招致事業)は、今年で25周年を迎えることとなりました。

外国語教育の充実を図るとともに地域レベルでの国際交流を推進することを目的とするJETプログラムがこれまでに招致した外国青年の数は、60カ国から5万5千人に上り、世界最大規模の人的交流プログラムとして国内外から高く評価をされています。

これもひとえに、本プログラムに携わる全ての方のご尽力、ご支援の賜物と感謝いたしております。

一方、グローバル化が進展する今日、諸外国との相互理解を増進し、我が国の国際化の促進に大きな役割を果たしてきたJETプログラムに対する期待は、益々高まっているところです。

こうした中、JETプログラムについて、これまで25年にわたる取組みの成果を振り返り、更なる発展に資するとともに、広く各界の皆様の理解向上に向けて、「JETプログラム25周年記念シンポジウム」を開催いたします。

総 務 省

外 務 省

文 部 科 学 省

(財)自治体国際化協会

## 「JET プログラム 25 周年記念シンポジウム」次第

- 1 開会 (12:30)
- 2 黙祷
- 3 主催者挨拶 (12:35~12:50)  
総務大臣  
外務大臣  
文部科学大臣
- 4 来賓挨拶 (12:50~13:20)  
駐日米国大使  
駐日英国大使  
駐日韓国大使
- 休憩 (13:20~13:30)
- 5 記念講演 (13:30~14:20)  
『A Triumph of Soft Power』  
ジェームズ・ギャノン (米国法人国際交流センター事務局長)
- 休憩 (14:20~14:30)
- 6 JET 経験者による活動報告 (14:30~15:30)  
『Teaching English in Yamaguchi between Showa and Heisei: the importance of the local』  
アンガス・ロッキヤー (ロンドン大学アジアアフリカ学院日本研究所長)  
『草の根の国際交流の深化』  
キム・ジンア (韓国全国市・道知事協議会国際協力部長)
- 休憩 (15:30~15:40)
- 7 パネルディスカッション (15:40~17:10)  
『JET プログラムの 25 年と将来展望』  
コーディネーター 中邨章 (明治大学名誉教授)  
パネリスト 山田啓二 (京都府知事・全国知事会長)  
新里眞男 (東京国際大学教授)  
アンガス・ロッキヤー  
(ロンドン大学アジアアフリカ学院日本研究所長)  
キム・ジンア  
(韓国全国市・道知事協議会国際協力部長)  
木村陽子 ((財) 自治体国際化協会理事長)
- 8 閉会挨拶 (17:10)  
(財) 自治体国際化協会 会長 山田啓二
- 9 閉会 (17:15)

## 講師紹介

### 【記念講演】

#### ジェームズ・ギャノン／米国法人国際交流センター（JCIE）事務局長



JCIEにおいて、日米関係強化と国際協力の深化を目的とした両国議員・政治交流プログラム等を多数実施。東日本大震災後、JCIE事務局長として、米側義援金の効果的活用のために、日本側支援団体を米側慈善団体に紹介する等日米の支援をつなぐ活動を積極的に実施。また、モーリーン&マイク・マンズフィールド財団の「日米次世代を担うネットワーク」のフェローを務め、米国及び日本の出版物に社会貢献活動、日米関係、アジアの新秩序等に関する記事を多数執筆。1992～1994年、愛媛県のALTとしてJETプログラムに参加。愛媛大学で戦後経済史に関して研究。ノートルダム大学から学士号、コロンビア大学の国際公共政策大学院から修士号取得。2001年のJCIE参画以前は、国際協力銀行ニューヨーク事務所にてマクロ経済および政治関連の研究を行う。

### 【活動報告】

#### アンガス・ロッキヤー／ロンドン大学アジアアフリカ学院日本研究所長



1988～1990年、山口県のALTとしてJETプログラムに参加。JETプログラムへの参加を契機に日本研究を始める。専門は日本近代史。2004年からロンドン大学アジアアフリカ学院(SOAS)において教鞭を執っている。JETプログラムについて、「英国のみならず、英語を母国語とする国々と日本との関係強化への貢献は計りしれないほど貴重である」と評価している。

#### キム・ジンア／韓国全国市・道知事協議会国際協力部長



1993～1996年、鳥取県のCIRとしてJETプログラムに参加。鳥取県初のCIRとして活動し、韓国江原道との友好提携(1994年11月)に当たっての橋渡し役を果たすなど幅広く活躍。JETプログラム終了後も「とっとりふるさと大使」として鳥取県の魅力を発信し。現在、韓国地方自治団体国際化財団及び韓国全国市・道知事協議会にて、韓国自治体と世界自治体間の交流に取り組む。2006年11月「JETプログラム20周年功労者総務大臣表彰」受賞。

## 【パネルディスカッション】

### ■ コーディネーター

中邨 章（なかむら あきら）

明治大学名誉教授



1963 年関西学院大学法学部卒。1973 年南カリフォルニア大学大学院政治学部博士課程修了。政治学博士。カリフォルニア州立大学講師、ブルッキングス研究所研究員、カナダ・ビクトリア大学特認教授、国際連合行政専門委員会(UNPAN) 委員、明治大学大学院長、副学長などを歴任。現在、国際行政学会副会長。2006 年にマレーシア政府叙勲、2008 年国際協力機構緒方貞子理事長表彰を受賞。専門は行政学、都市政策、地方自治、政治学。財団法人 地方公務員安全衛生推進協会 理事長

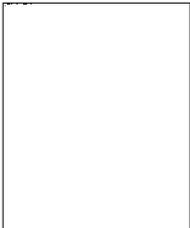
### ■ パネリスト

山田 啓二（やまだ けいじ）／ 京都府知事・全国知事会長・（財）自治体国際化協会会長



1977 年東京大学法学部卒。自治省（現総務省）に入省以来、和歌山県、国際観光振興会サンフランシスコ観光宣伝事務所、高知県等で内外の地方自治を現場で体得するとともに、自治省行政局で地方分権の制度を担当。京都府総務部長、同副知事を経て 2002 年より現職。現在 3 期目。2004 年より日本政府観光局特別顧問会議委員、2007 年より新しい日本をつくる国民会議（21 世紀臨調）副代表及び全国知事会地方分権推進特別委員会委員長。2011 年 4 月より全国知事会長、（財）自治体国際化協会会長。

新里 眞男（にいさと まさお）／ 東京国際大学教授



東京教育大学卒。1972 年より東京都立高等学校、1977 年より筑波大学附属高等学校において、英語教諭として学校現場で勤務。1991 年より筑波大学学校教育専任講師。1992 年より文部省初中局中学校課・高等学校課教科調査官として教育行政に携わり、中学校および高等学校学習指導要領の作成を担当。2000 年より富山大学教育学部教授、2006 年より現職。

アンガス・ロッキヤー／ ロンドン大学アジアアフリカ学院日本研究所長（再掲）

キム・ジンア／ 韓国全国市・道知事協議会国際協力部長（再掲）

木村 陽子（きむら ようこ）／ （財）自治体国際化協会理事長



奈良女子大学卒。大阪大学大学院経済学研究科公共経済学専攻博士課程修了。奈良女子大学教授、放送大学客員教授、財務省財政制度等審議会委員、内閣府男女共同参画会議影響調査専門調査会委員、社会保障構造の在り方について考える有識者会議委員、総務省地方財政審議会委員、新地方分権構想検討委員会委員、文部科学省大学設置・学校法人審議会専門委員などを歴任し、地方行財政、社会保障等の各種施策に参画。2010 年から財団法人自治体国際化協会理事長として、地方公共団体の国際化を支援し、その一環として JET プログラムの更なる充実に取り組んでいる。

## JET プログラムの概要 What is the JET Programme?

JET プログラム (The Japan Exchange and Teaching Programme) は、地方公共団体が総務省、外務省、文部科学省及び財団法人自治体国際化協会 (CLAIR) の協力の下に、外国青年を招致する事業です。

当プログラムは昭和 62 年に開始し、これまでに世界 60 か国から 55,000 人を超える青年を招致している世界最大規模の人的交流プログラムとして、内外から高く評価されており、平成 23 年度で 25 年目を迎えます。

来日する参加者は、日本全国の学校等で外国語の指導や、地域における国際交流活動に携わることにより、地域の住民と様々な形で交流を深めるとともに、諸外国との相互理解及び日本の国際化の促進に資することを期待されています。

The Japan Exchange and Teaching (JET) Programme is operated by local authorities in cooperation with the Ministry of Internal Affairs and Communications (MIC); the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT); the Ministry of Foreign Affairs (MOFA); and the Council of Local Authorities for International Relations (CLAIR).

The Programme is one of the world's largest international exchange programmes and has an excellent reputation in Japan as well as abroad. Since its inception in 1987, over 55,000 people from 60 different countries have participated in the programme, which celebrates its 25<sup>th</sup> anniversary this year.

The JET Programme is intended to increase mutual understanding between the people of Japan and other nations and to promote internationalisation in Japan's local communities through improving foreign language education in schools throughout Japan and developing international exchange at the local level.

### 【平成 23 年度 JET プログラム参加人数】 / 【Number of 2011-2012 JET Programme Participants】

ALT: Assistant language teacher (外国語指導助手) 3,955 人 / participants

→教育委員会や学校で、外国語教員等の助手として職務に従事

Assist as foreign language instructors at boards of education and schools

CIR: Coordinator for International Relations (国際交流員) 368 人 / participants

→地方公共団体の国際交流担当部局等で主に国際交流活動に従事

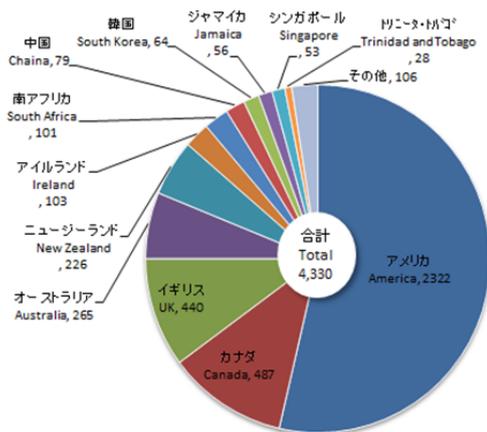
Assist local government offices in international exchange activities

SEA: Sports Exchange Advisor (スポーツ国際交流員) 7 人 / participants

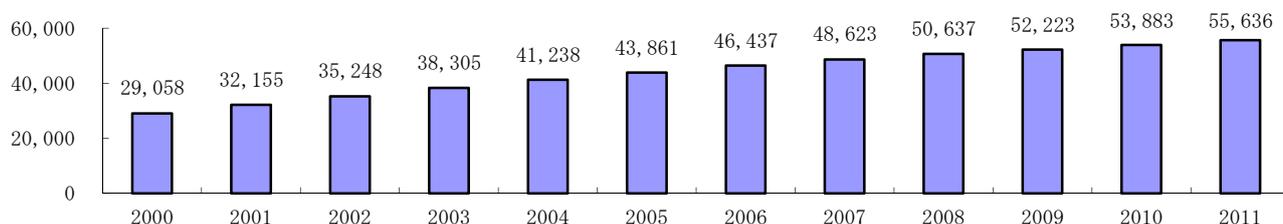
→スポーツを通じた国際交流活動に従事 / Promote internationalisation through sports

計 4,330 人 / participants

### 【平成 23 年度 JET プログラム参加者出身国内訳】 / 【Breakdown of 2011-2012 JET Programme Participants by Country】



### 【JET プログラム参加累計】 / 【Total Number of JET Programme Participants】



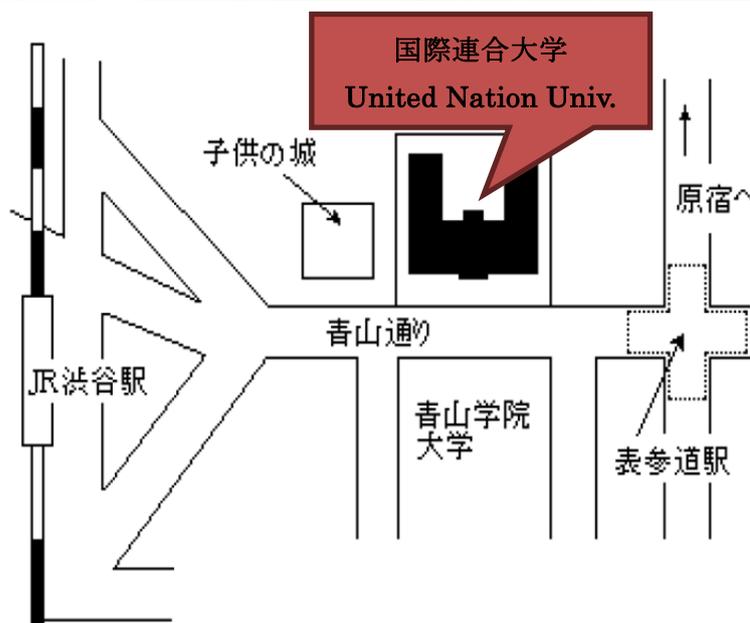
## 会場のご案内 Access to the Venue

国際連合大学「ウ・タント国際会議場」

東京都渋谷区神宮前5丁目53-70

United Nation University “U Thant Hall”

5-53-70 Jingu-mae, Shibuya-ku, Tokyo



- ▶ JR 渋谷駅から徒歩 10 分
  - ▶ 地下鉄表参道駅（銀座線、半蔵門線、千代田線乗入れ）出口 B2 から徒歩 5 分
- ※会場に駐車場はございませんので、公共交通機関のご利用をお願いいたします。